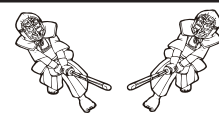




題字：細川武敏 (41 期) 筆
OB 会 報 誌 第 23 号
平成 27 年 12 月 1 日 発行
制作：会報編集委員
(株)上田ワードプロセス企画
TEL. 0268-23-1122 (代)



OB会の繁栄と現役生の活躍は、車の両輪である



会長 春原和民 (六十四期)
六月の総会で会長の
大役を仰せつかり、
過去に自分達が受け
た先輩 OB の方々へ
の恩返しのためにお受けしました。
微力ながら会の発展に尽力してまいり
たく、会員の皆様のご協力をお願い致
します。会長就任に当り、標記のスロー
ガンの他に基本的な方針を以下に掲げ
ます。

一、伝統の灯火を絶やさない！
戦前の話ではありませんが、かつての
母校の剣道教師でありました伊藤長三
先生が築かれた「上中剣道」、それは
劍聖・高野佐三郎範士の教えを汲む劍
道の本流であったと推測しています。
そして昭和十四年、当時、隆盛を極
めた修道学院が主催する全国剣道大会
における優勝は、我々後輩にとっても
大きな遺産であり、これを各会員は自
らの研鑽の糧とするともに風化させ
ることのないよう、現役生の皆さんに
引き継いでいただきたいと念じていま
す。

二、現役生への支援
旧会則の「会の目的」には、剣道班

の活動を「後援」とありましたが、「支援」に変更しました。これは、遠く離れて見守る後援から、一步、踏み込んだ積極的な行為としての援助を意味するものであります。

支援の方法には種々あろうかと思いますが、何よりも大事なものは OB の皆さんが機会をみては後輩の稽古に参加して、自身の剣技を後輩に授け、かつ、激励することではないでしょうか。

次には、経済的な支援が必要であると思えます。そのためにも、会費・寄付の納入は不可欠であり、会員の皆さんの積極的な会費納入に期待しています。

結局は、「先輩から受けた恩恵は、後輩に施す」ことが、OB 会の存続の原点ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

三、OB 会員同士の交流
OB の中には剣道を卒業、あるいは中断している方々も多くあります。このような会員間では、仕事を通じての「異業種交流」や、趣味を介しての交わりの機会も増加させたいと考えております。
会員の皆さんの積極的なご参加を切望致します。

活動報告



幹事長 山崎完爾 (七十七期)
事務局より平成
二十七年年度の OB
会活動につきご報
告いたします。
年度当初の四月

に役員会を開催し、総会等に向けての準備の打ち合わせと、役員改選に向けての人選を行いました。六月には新役員による役員会を開催し、役割分担、会則の改正について検討をいたしました。また、今年度から顧問として若林康彦先生 (剣道教士七段) が赴任され、

平成 27・28 年度新・役員

顧問	54 期 桑澤 俊猛
名誉会長	61 期 羽田 敏幸
会長	64 期 春原 和民
副会長	65 期 若林 健 (総務)
	71 期 柳沢 取 (会員)
	76 期 佐藤 博 (広報)
	82 期 近藤 敏朗 (指導)
幹事長	77 期 山崎 完爾
副幹事長	75 期 渡邊 隆信
	80 期 正村 聖美
	86 期 柳澤 哲
	86 期 唐澤 信広
	86 期 吉田 昭雄
	93 期 坂下 繁行
	105 期 矢ヶ崎 心哉
	106 期 滝浪 通
会計	87 期 金森 健志
監査	72 期 竹内 茂直
	86 期 唐澤 信広 (兼務)
参与 (正顧問)	若林 康彦
参与 (副顧問)	倉石 典広
退任役員	67 期 工藤武和・84 期 坂戸由恵 各氏におかれましては、長い間のご尽力に對し感謝申し上げます。

現役生の稽古が一層充実されることとなったため、OB 会として引き続き協力をしていくことで確認をいたしました。

毎年度恒例の事業であります宮下杯争奪戦・稽古会及び総会・懇親会につきましては、各担当がそれぞれ準備を進め六月二十七日に開催されました。最初に例年どおり宮下杯争奪戦・稽古会が上田高校体育館において行われ、

宮下杯争奪戦では OB 会員に審判団としてご協力をいただき、審判長は春原和民氏 (六十四期) にお願いをいたしました。試合は、班員の減少から一試合場での実施となりましたが、全員で男女全試合を観戦することができました。熱戦の結果については別掲にあるとおりですが、争奪戦後の講評では、OB 諸氏より現役生に対するアドバイスをいただきました。また、宮下杯を寄贈いただいた故宮下力氏 (三十八期) の実弟である宮下英世氏 (四十四期) が出席され、男女の優勝者に宮下杯の授与をさせていただきました。



65 期若林健、61 期羽田敏幸、44 期宮下英世、46 期井出賢次氏

例年ですと宮下杯に引き続き稽古会が行われるわけですが、今年度は現役生の視野を広げてもらうため、杖道の演武を行っていただきました。演武いただいたのは、打太刀 工藤泉三段 (六十三期) と仕太刀 小山和志三段 (八十期) のお二人です。静かな会場に気合が響き、会場にいた全員が剣道形とは違う杖道の形を興味深く見させ

ていただきました。引き続き行われた稽古会では、OB 会員と現役生との熱の入った稽古が行われ



左 80 期小山和志氏、右 63 期工藤泉氏
上小剣道連盟所属

ました。その後、会場を上田温泉祥園に移して OB 会総会及び懇親会が行われました。二十九名の方にご参加をいただき、盛会となりました。

羽田敏幸会長 (六十一期) のご挨拶に続き、工藤武和氏 (六十七期) を議長に選出し、二十六年度事業報告・決算報告に引き続き、役員改選となりました。

長年に亘り会の運営に力を注がれてきた羽田敏幸会長が退かれ、新たに春原和民会長 (六十四期) を選出いたしました。春原会長のご挨拶では、二十七年年度については改革の年、という位置づけで事業を進めていきたい、という提案があり、会則の改正、事業計画・事業予算についてご承認をいただきました。また、四月から剣道班正顧問となられた若林先生



左より 67 期大塚博文、67 期工藤武和、羽田名誉会長、64 期宮坂昌之の各氏

期)が羽田敏幸氏(六十一期)とともに退任をされました。長年のご尽力に感謝申し上げ、引き続きのご協力をお願いするものでございます。また新たに、坂下繁行氏(九十三期)、矢ヶ崎心哉氏(百五期)、滝浪遙氏(百六期)の若い力を得ることができました。若手の皆さんにも積極的にOB会活動へのご参加、ご協力をお願いいたします。

もう一つの大きな事業である「剣風」の発行につきましては、例年九月頃から担当役員を中心に、企画、原稿依頼・準備、編集を行ってきております。「剣風」はOB会員の皆様への重要な情報発信の一つとして重要なものですので、誌面を充実するため、内容についてのご感想、ご意見をぜひお願いいたします。また、その発送については、経費削減のため、インターネットの活用、メール配信等の方法を検討することを検討いたしました。

次に運動部OB会連合会事業の参加についてご報告いたします。

一月三十一日の幹事会に引き続き二月二十八日に総会が祥園にて行われ、当会からも参加をいたしました。総会においては事業・決算報告、事業予定・予算案等が審議されました。OB会連合会では、北信越大会以上の大会への出場班、出場者に対し激励金を送る事業をしておりますが、二十六年度は北信越大会へ剣道班が男子団体及び個人、女子個人での出場を果たしていることから、現役生に計四万五千円の支払いがありましたことをご報告いたします。

また、OB会連合会では春と秋の二回ゴルフコンペを開催しております。

当会からも有志の方々にご参加をいただいております。ホームページ等で催のご連絡をさせていただきまますので、大勢の皆様のご参加をお願いいたします。

OB会連合会の幹事は毎年持ち回りとなっております、二十七年についてはハンドボール部が当番幹事となっております。

最後に、二十七年から新役員の体制となり、インターネット利用の機会が増えると思いますが、会員の皆様には引き続き活動へのご支援、また積極的なご参加についてもお願い申し上げます。活動報告とさせていただきます。

〜随筆・和親記より〜
神紋から信濃の国の成立を考える

信州大学 大学院総合工学系研究科 教授 太田和親(百一期 太田朝裕・父)
2005年5月28日 随筆

私は、昨年五月から今年の五月までの丸一年間、上田市内の神社仏閣を全て見て回ろうと訪ね歩いてきました。あと数ヶ所を残すのみとなりこの五月中に目的を達成しそうです。これで満願成就ということになりますが、来年三月には上田市は周辺の真田町、丸子町、武石村と合併して新上田市になる予定ですので、【編集者注：現在は合併済み】また自分それらの新しい地域を回ることになりそうです。しかしこの一年間現上田市をくまなく歩いて神社仏閣を訪ねていて、大変面白いことに気が付きました。特に神社ですが、神社の屋根や本殿の懸魚(げぎよ)の上の辺りに、その神社神社に特徴的な

神紋がついていることでした。私はそれまで家紋というのは知っていましたが、神社やお寺にも、それぞれ神紋や寺紋があることを初めて知りました。

神紋は神様の系統系譜を表したものです。例えば梶紋(カジモン)が付いていれば、その神社は諏訪系と考えてよいそうです。上田市の神社には、梶紋の付いた神社が沢山あることに気が付きました。その諏訪系の大本の諏訪大社の神様は建御名方命(タケミナカタノミコト)です。建御名方命は大国主命(オオクニヌシノミコト)の息子です。そして建御名方命は「当国開闢(かいびやく)の神」であると市内のいくつかの神社の由来に書かれています。つまりこの信濃の国を最初に開いた神様ということでしょう。したがって梶紋の付いた神社が上田に多いとい



科野大宮社 (上田市常田)

うことは、この地域を最初に開いた偉大な指導者である建御名方命を上田でも大変崇敬しているということを表していると考えられます。上田市内に沢山ある梶紋の付いた神社の名前は、諏訪大社の末社と考えられ名前がそのま

まの諏訪神社・諏訪宮となっているもの以外にも、名前が違っても梶紋がついているものが沢山あります。私がお実際に訪ねて梶紋がついていることに気付いたものを下に全て挙げてみます。

〜【中略】〜

建御名方命の父は大国主命(オオクニヌシノミコト)で、出雲大社の御祭神であることは有名です。古事記や日本書紀によれば、父の大国主命と兄の事代主命(コトシロヌシノミコト)は、大和朝廷系の天照大神勢力に出雲の国を譲れといわれて、無抵抗で承諾しました。しかし、建御名方命だけは、最後までうんと言わなかったため、最後に相撲で勝負して決めようということになり相撲で勝負したところ負けてしまい、信濃の国の諏訪まで逃げて来ました。ここから出ないから、もう私をこれ以上攻めないでくれということになり、諏訪に落ち着いたということになります。きっとこれは建御名方命だけが、武力で抵抗したが最後には降参して、諏訪まで逃げたということでしょう。建御名方命のお母さんの奴奈川姫(ヌナカワヒメ)は越後(現新潟県)の出身だったので、こちら方面について頼って出雲から逃げてきたということでしょう。越後ではまだ危険だったのが、さらに山の中の信濃の方面に逃げた最終的に諏訪に落ち着いたというのが真相だと思います。越後から千曲川(信濃川)を遡ってきたでしょう。上田市内の加美畑(かべたけ)神社の由来および生島足島神社の由来によると、建御名方命が出雲から中信の諏訪に移住する途中、上田市内の加美畑神社の地にまず一時的に滞在し、次に生

島足島神社の地に滞在して、これらの地域に、農業と養蚕を教えたと言われています。そして生島足島神社から中信地区の塩尻に行き、最後は諏訪に落ち着いたそうです。塩尻から、諏訪に来るとき、原住民の守矢(もりや)氏の勢力と岡谷の辺りで戦ったという記録が、諏訪神社に伝わる「諏訪絵詞(すわえことば)」に載っているそうです。最終的には原住民の守矢氏と融和し諏訪地方は安定します。そのため諏訪神社は上社と下社に分かれて、それぞれ祭事は縄文的なものや弥生的なものに分かれているのが特徴です。守矢氏は上諏訪神社を祀り、その祭事は鹿の頭を供えるなど狩猟採集時代の縄文の伝統を色濃く残し、江戸時代までその祭事は実際に行われ続けていたそうです。その神長官(じんちょうかん)の家系の守矢家当主は現在78代目です。一代30年とすると二千三百年も続く家系となります。おそらく日本でも一番古い家系でしょう。天皇家よりも古いものと思われまます。下諏訪神社の方は稲作系の伝統を表わした祭事を行い、代々金刺家がその祭事を担当していたようです。金刺家は(おおはふり)の家系で、後に源平の合戦の時木曾義仲の重臣として活躍する手塚太郎金刺光盛は、金刺家の出身で諏訪から上田の手塚に移り住んだ人です。このように、建御名方命は出雲を出て、越後から千曲川を遡り、上田、塩尻を経て諏訪に行き定住したことがわかります。その時が信濃では、縄文時代が終り弥生時代が始まった時期となりまます。縄文時代には国の概念がなく原住民が各地に盤踞している状況ですか

ら、建御名方命が来て初めて国としてまとまり信濃の国が始まったということです。それで建御名方命が当国開闢の神として今も崇敬されているのだと考えられます。因みに、建御名方命の子の興波伎命（オキハギノミコト）は諏訪を出て佐久に行き佐久地方を新たに開発した神として、佐久市白田（旧白田町）の新海神社に祀られて崇敬されています。

このような歴史上の状況がわかったので、もう一度上の方で示した「上田市内で梶紋のついた神社のリスト」を見て下さい。科野大宮の神紋が梶紋+五三の桐となつています。科野大宮の御祭神は大国主命と事代主命であり、上に述べたように出雲・諏訪系統と見なしてもよいわけですから、その神紋が梶紋であるのは納得がいきます。

しかし、拝殿屋根瓦には五三の桐が付いているのに大変疑問を感じます。そんな折、上田高校の正門の屋根瓦を見ていましたら、何と五三の桐が付いていました。上田市民にはよく知られていますが、上田高校が今ある場所



科野大宮社の梶紋

は元上田藩のお殿様の屋敷でその門がそのまま残っています

科野大宮社の五三の桐紋

科野大宮の拝殿の屋根瓦上部に五三の桐がついているのは、幕末に社殿を建て替えたときに、上田の殿様の松平氏とその費用を全額出したそうなので、スポンサーに敬意を表して、松平家の家紋を付けたものと考えられます。しかし拝殿の裏の本殿社（やしる）の屋根、懸魚（けぎよ）の上にはちゃんと梶紋がついています。また拝殿前の大きな石の水鉢一对にはそれぞれ諏訪梶紋が付いています。毎年十月のお祭りの時には拝殿に幔幕が張られますがその幕にも諏訪梶紋が付いています。したがって、本来は梶紋であることがわかります。目に付きやすい屋根の上には五三の桐がついているということは、



校門の五三の桐紋

上田高等学校正門

て、現在も上田高校の正門として使われています。とても歴史を感じられる高校で、この正門には上田高校生や

やはり今も昔もスポンサーは大切にされるということでしょう。

【中略】

ここで梶紋ではないのですが、大変注目される神紋があります。上田市の隣に小泉（ちいさがた）郡青木村があります。その青木村に子檀嶺（こまゆみ）神社があります。小泉郡には延喜式内神社は五つありますが、子檀嶺神社はその一つで大変古い神社です。この神社の神紋は「二重亀甲に花菱」で出雲大社の神紋と全く同じで、出雲系であることを表わしています。御祭神は、木保（こまた）神で、大国主命の最初の子です。コトシロヌシやタケミナカタのお兄さんに当たる人です。この神紋から考えると、梶紋より古くからここに出雲から来て定着したのではないかと想像できます。タケミナカタノミコトが来る前に、既に出雲から少しずつ先にこの地へ逃げてきていた出雲勢力があるのではないかと私は考えています。そこで大変注目されるのは、上田市から千曲川下流の長野市豊野地区に延喜式内神社の伊豆毛（いずも）神社があることです。信州に古くからイズモという名前の神社があつたのです。縄文時代から弥生時代に移り変わる大変革期に、出雲から信濃へ移動があつた歴史を証明できる神社ではないかと考えられます。以上のように、通常教科書で習わない信濃国成立の歴史が、神紋から読み取れ大変興味深いです。

最後にになりましたが、是非皆さんにもう一つ知ってもらいたいことがあります。科野大宮の鳥居の横に、「科野大宮の碑」と書かれた大きな石碑が

建っています。その石碑にも縄文時代から弥生時代に移り変わる大変革期の歴史を彷彿とさせる大変興味深い故事が書かれています。しかし現在上田市民にさえその故事はほとんど知られていません。大変面白いものです。別稿「科野大宮の碑から上田の歴史を考察」で論考していますので、是非合せて読んでみて下さい。これらは信濃の国の成立、ひいては日本の国の成立について大変考えさせられます。

※編集者注：原文を改変せず一部を割愛して掲載しました。詳細は次のホームページをご覧ください。太田和親著：和親記・神紋から信濃の国の成立を考へる
<http://www13.ueda.ac.jp/~ko32517/toppage3から3番目の作品です。>

『OB対談・海外編』

今回は、国内外で営業・マーケティングをされている加藤篤史さん（93期）にお話をお伺いしました。

【司会】 剣道を始めたきっかけなどをお聞かせください。

【加藤】 剣道を始めたのは神科小学校・四年生の時でした。きっかけは近所の



左・加藤篤史氏（93期）サンノゼの大会にて

の友達が剣道をやっていたという単純な理由から。当時はマンガ（六三四の剣）の影響もあつたせい、小学生の剣道人

口は多かったのではないかと記憶しています。当時、神科剣道クラブでは上田高校の大先輩である塚原忠雄先生が指導をされていました。先生はもはや防具をつけて稽古をされることはなく、少年達に技術的な細かい指導をされることもありませんでした。基本の足さばきをひたすらやらされたのを覚えています。それよりも先生が剣の修行を通じ、人として守るべき道徳や精神を子供たちに説かれていたことが印象的です。十項目の全てを正確に思い出せませんが「剣道十訓」という教えのいくつかは大人になった今でもやはり私自身を律する道徳として息づいています。当時は先生の偉大さを全く理解できませんでしたが、今振り返ると武専出身の大先生に最初のご指導をいただけたことは実に幸運なことだったと思います。

【司会】 中学生の頃はとうでしたか。

【加藤】 市民大会の個人戦や団体戦で優勝するようになってくると、俄然剣道が面白くなってきました。最終的には県大会の二回戦くらいで負けてしまふようなレベルではありましたが、これから先も剣道を続けていこうという動機としては十分でした。

【司会】 上田高校では、どのような体験をされましたか。

【加藤】 顧問の丸山先生との出会いは大きかったと思います。先生は大変ユニークな方で、生徒の自主性を重んじて、いかにして上田高校剣道班を強くするかということを考えておられました。先生は大人になってから剣道を

始められたので当時はまだ無段。剣道について自分は素人だと公言し、我々と共に稽古し、今の面はどうだった、小手はどうだったと、学生にアドバイスを求める熱心な剣士でした。剣道に取り組みそうした真摯で謙虚な姿勢が高校生だった我々にも無意識のうちに先生と言うよりも「仲間」という意識を醸成していったのでしよう。卒業してから二十年を経た今でも帰省の折に時間が合えば、先生を誘って当時の仲間と飲みに行くようにしています。

一方、私は伝統ある上田高校剣道班の班長として責任を感じていて、かなり狂信的に取り組んでいたと思います。当時の同級生、後輩はそうした姿勢を理解し、よくついてきてくれました。とても感謝しています。結局インターハイには出場できませんでしたが、得難い財産を上田高校で得ることが出来たと思います。

【司会】 大学時代はどうしたか。

【加藤】 大学では剣道部に所属せず、下宿の近所にある道場に通って気ままに稽古を続けていました。大学の剣道部に入らなかった理由は進学したのが私学だったため、スポーツ推薦でとんでもない奴が入ってきているのを知ったからです。入学して間もないころ、稽古場へ見学に行きました。たまたまそこでは先に入部した一年生同士が二人で互角稽古をやっています。しかし片方が相手を一方的に叩く展開。聞けばこの剣士はインターハイで高鍋率いる PL 学園が優勝した年、PL に敗れて二位となった高千穂高校の正選手だとのこと。しかし私にとってそれ以上

に衝撃だったのは打たれていた選手が、個人戦のインターハイ埼玉県代表選手だったこと。私ごときインターハイの出場経験もない田舎剣士が到底ついていけない世界ではない。と観念するに足る光景でした。正直に言うとうと生活が剣道一色で終わらせるのが嫌だったこともあり入部はあつさりやめることにしました。その代わりに、と通ったのが厚木にある思斉館・滝澤道場です。ここはかの滝澤光三先生が作った道場で、私が通い始めた時には息子の健治先生がまだ七段（現在は教士八段）で、さらに元全日本選手権者、上段の名手・伊保清次先生もそこで稽古をされていると言う、今思うと実にすばらしい環境でした。しかし私が通ったのは厚木に大学キャンパスがあった二年間だけ。それも気の向いた時に顔を出して稽古し、たまに先生のおごりで飲んで帰る、という極めて不真面目な門人でした。それにも関わらず十数年ぶりに京都大会で滝澤先生にお会いした際、私のことをはつきり覚えていて下さったことは大感激でした。

【司会】 社会人になつてからの剣道との関わりはどのようでしたか。

【加藤】 近所の道場に通いながら気ままに稽古するスタイルは社会人になつてもしばらく続きましたが、自分の剣道に転機が訪れたのは大阪へ転動した 2005 年です。それまで全く縁もゆかりもない土地でしたが、宮坂昌之先輩に道場を紹介していただきそこで多くの剣士と知り合うことが出来ました。中には自分の今までの剣道観を大きく

変える出会いもあつて、この頃からかなり真剣に、かつ相本気で剣道に取り組み出しました。おかげでこの世界で超一流の先生方からご指導を受ける機会が数多くありました。真剣に稽古に取り組むことで次第に仲間が増えていきます。あちこちの稽古会に誘われ、そこでまたつながりができ、さらにある関西の大学剣道部とは自分が卒業生でもないのに OB 稽古会や新年会にまで呼んでいただくほど先輩方との絆が深まり、とにかく剣道が単なる趣味の領域を超え、多くの人のつながりを生み、自分の人生を確実に豊かにしていることを実感してきました。

【司会】 どのような経過で現在の仕事に就くようになりましたか。

【加藤】 大学卒業後、当時中堅と呼ばれた国内電機メーカーに就職しました。配属は数年間、ずっと国内営業です。しかしいつか世界を相手に仕事をしたいという中学時代からの夢を持ち続けていたので、その後、携帯電話向け部材や電子部品を提供する関西のメーカーに海外営業として転じました。自らの希望がかない、北米メーカーとの取引を中心にその会社で七年ほど働いた頃、北米地域のマーケティングを強化しようとしていた関西の化学メーカーからお声がかかりました。それが今の会社で、三年前に移籍しました。

【司会】 現在どのような仕事を行なっていますか。

【加藤】 化学メーカーの営業・マーケティング担当として主に三つのミッ

ションを持つて動いています。①スマホやタブレットのタッチパネルに使われるコーティング材料や化成品を北国西海岸のメーカーに対して売り込むこと。②米国内でターゲットとなりそうな新しい市場と顧客を見つけ、マーケティング活動を行なうこと。③製品開発の新たなアイデアをシリコンバレーでみつけ、研究部隊にフィードバックすること。今年十一月まで実際に一年間シリコンバレーに滞在し、活動していました。今は日本に戻りましたので今後は米国のみならず、全世界の市場や顧客に対しても各地域の担当者と一緒にしながら自社製品の営業・マーケティング活動を展開していくことになりました。

【司会】 どのようなことを目指していますか。

【加藤】 新事業につながる新しいアイデアや仕組みを作り出すことを目指しています。単に材料メーカーとして素材を供給するだけでなく、そこに付加価値を生み出すためにパートナーと連携し、新しいモノやサービスを生み出す。世の中の変化を先読みして今はまだ形になっていないニーズを取り込む仕組みを作れたらいいなと思っています。こうしたイノベーションは決してたやすくできるものではありません。しかし強い思いを持つて実現のために取り組むことが重要であると思います。米国のシリコンバレーについて言うと、日本の企業や大学の間で空前のシリコンバレーブームともいべき進出ラッシュが起こっています。安部総理の訪米もあつて、いまや猫も杓子も

シリコンバレーという状況です。彼ら地における仕事のスピード感はとても刺激的ですが、このブームに飲まれて焦ったり、浮き足立ったりしてはいけないと日々感じています。

【司会】 アメリカでの剣道はどうでしたか。

【加藤】 週二回、サンノゼ道場とスタンフォード大学剣道クラブの二箇所稽古をしていました。シリコンバレーへの赴任が決まる頃、自分が住む場所よりもまず先に見つけたのが剣道場です。サンノゼの道場は日本人の先生が道場主で、中韓台のアジア系メンバーと私のような日系企業の駐在員数名が中心で有段者の数でいうと四十〜五十名程度の規模です。メンバーの中には大学の剣道クラブで教えているという師範の先生もいて、その方から強力に誘われる形でスタンフォードにも出入りさせてもらえるようになりまし



スタンフォード大学剣道クラブ、前列向かって右から四人目・加藤氏

うになりました。クラブの学生たちは全員初心者ですが、その一方で、五〜六段の日系企業の駐在員と近隣の道場から集ってきた有段者が一緒に稽古をしていました。私がある程度に混じってなぜか指揮を執ることを任されたので、それならば、と日本でやっていた

自分の稽古をほぼそのまま米国で実践させてもらいました。すなわち切り返しを主体に、基本打ち、打ち込みという非常にシンプルで非常に地味な稽古です。これを徹底してストイックにやりますので若い人には面白くなかったかもしれません。しかしこれがいかに大事で、なぜその基本を自分はやっているのか、一つ一つの動作の理由や背景を説明してあげると大抵は納得して取り組んでくれました。そこまでストイックに基本をやる人がいなかったためか、または今までその機会が無かったためか、こうした稽古を求めてくる日本人も何人かいました。彼らとの稽古はとても楽しかったです。

【司会】最後に、後輩に向けて一言などありますか。

【加藤】剣道班の一員である以上、剣道には全力で取り組んでください。一方で剣道以外に自分が面白いと感じること、興味があることに貪欲に取り組んでください。なんでもよいです。剣道以外の何か一つを見つけるようにしてみてください。もし迷うことがあるなら、迷う前に挑戦してみること。若いうちから剣道という枠に自分を閉じ込めないで欲しい。剣道のプロを目指すなら別として、人生は剣道がすべてではありません。

それから剣道に向き合う姿勢として、「稽古は厳しく、剣道は楽しく」やってほしいと思います。そしてできるだけ長く、生涯にかけて



左・加藤氏、剣友の会社を訪問しランチミーティング

剣道が続けていつまでいいです。長く続けることで次第に分かってきますが、剣道には勝ち負けや技能の優劣とは全く別に、世代性別を越え、国境を越え、多くの人と交流できるという独特の醍醐味があります。逆にその楽しさが分かるようになるまではどんな形であれ、ずっと剣道が続けていつまで欲しいですね。

【回答者】加藤篤史 (九十三期)

【司会】佐藤博 (七十六期)

【記録】正村聖美 (八十期)

剣道今昔

平成 27 年度戦績

- 第 157 回東信高等学校体育大会 (5 月 16・17 日)
 上田市自然運動公園体育館
 団体男子 3 位
 個人男子 我山能崇 5 位
 団体女子 6 位
 個人女子 坂下紗蒼 8 位

- 長野県高等学校総合体育大会 (6 月 6・7 日) 岡谷市
 団体男子 ベスト 16 (リーグ戦 2 位)
 個人男子 我山能崇 5 位
 団体女子 ベスト 8 (リーグ戦 1 位)

- 北信越高等学校総合体育大会 (6 月 19～21 日) 富山県
 個人男子 我山能崇

- 第 9 回真田幸村杯剣道大会 (9 月 13 日)
 上田市自然運動公園体育館
 男子上田 A 2 位
 男子上田 B 2 回戦
 女子 2 回戦

- 第 158 回東信高等学校体育大会 (10 月 17・18 日)
 小諸市武道館
- | | |
|--------|------------|
| 男子団体 | 女子団体 |
| 1 佐久長聖 | 1 佐久長聖 |
| 2 上田 | 2 上田染谷丘 |
| 3 上田西 | 3 野沢南 |
| 4 上田東 | 4 上田 |
| 女子個人 | 浅野 (ベスト 8) |

- 平成 27 年度長野県高等学校新人体育大会 (11 月 14・15 日)
 長野運動公園総合体育館
 男子団体
 準々決勝長野日大高校に負けベスト 8 (5 位)
 女子団体 1 回戦 長野高校に本数負け

顧問着任にあたって

上田高校剣道班顧問
若林 康彦

「今」
平成二十七年

こんにちは。今年度の人事異動で上田高等学校に着任し、剣道班の顧問となりました若林康彦です。担当教科は保健体育科です。よろしくお願ひいたします。
 着任してすでに半年が過ぎようとしています。伝統ある上田高校剣道班の顧問として日々、緊張感と充実感を感じております。

現在、剣道班員は男子九名、女子五名の計十四名です。他校に比べれば決して少ない数ではありませんが、もっと班員を増やしていくことが大事だと考えております。そうした中でお互いに切磋琢磨することが、技術力と競技力の向上に繋がると思っています。

又、試合に勝つことは当然ですが、生徒には剣道の稽古をとおして、努力すること、工夫することの大切さ、そして人を思いやる心の貴さを学んで貰いたいと思っています。

剣道はよく「行」であるといわれますが、私も竹刀を握ってすでに四十数年が経ちます。これからも生徒と共に、「師弟同行」を胸に修行に励んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、OB会長の春原先輩を始め、OB会の皆様には物心両面のご支援を頂き本当にありがとうございます。この誌面をお借りしてお礼申し上げます。

以上、簡単ではありますが私の挨拶とさせていただきます。



剣道今昔

撃剣部記事

春季競技会

春色 駘蕩 佳景 夢も漸く頰りならむとする
五月二十八日我校例によりて春季競技会を催せり
競技は森幹事の令の本に開始せられぬ
集りたる幾多之健士容儀堂々互に其秘をつまして戦
ひぬ此日本勝負三本抜に名譽の勝利を得られし諸
士は柳澤英柳澤希策倉田實小林孝四郎安川海六西澤
重明の六名あり

六月十一日我が信濃に此人ありと知られたる小野田
先生は武徳會總裁伏見宮殿下より範士の稱號及び年
金を授與せらる先生の徳高く且英邁なるは今更の事
亦がら世にありがたき大和武士の尊大なる名譽は獨
り先生のみならず其教導を蒙むる吾部員延ては吾
校の名譽あり即ち我部は聊か祝意を表せんが爲祝賀
講話會を開く森幹事開會の辭を會長先生よりの先生
に關する畧歴及森、宮澤、豊田先生の講話あり黃昏に
至りて閉會を次ぐ

○野對澤中學の試合 六月十四日筋骨たえまじき關
川、小山、戸塚、前島の諸勇士率り試合を問ふ我が

「昔」 明治四十一年

撰手は之を快諾きて之に應ず (○印は勝)

○戸塚 雅雄 (野澤) ○前島 純夫 (野澤)

○佐藤 石禪 (野澤) ○小山 寛 (野澤)

○關川 石禪 (野澤) ○池内 正 (野澤)

○佐藤喜美三 ○池内 正 (野澤)

○前島 純夫 ○戸塚 吉雄

○山崎 暢夫 ○前島 純夫

○戸塚 正 ○佐藤喜美三

○池内 正 ○關川 石禪

○山崎 暢夫 ○山崎 暢夫

○村瀬 吉雄 ○池内 正 (野澤)

○小山 朝丸 (野澤)

○佐藤喜美三 ○小山 朝丸

○關川 石禪 ○小山 朝丸

○對野澤中學の試合 九月二十三日秋季孝懸祭の佳
晨を期して野澤に試合を申し込みぬ我が一行は野中
の道場に昇るや意氣揚々手に握る竹刀銀水を曳き雷
と轟く掛聲諸共に丁々發矢と切り出し閃々として稻
妻の如く龍と迫り虎を開き千變万化秘を盡し奇を致
し闘ふこと二時余三十分にして終りを告げぬ

剣道班・アーカイブス

当剣道班OB会では、明治～大正～昭和に至る貴重な写真を関係者のご協力を得て収集し、後世に残す為データ化した。それらの中から貴重な写真を紹介する。



伊藤長三、新井守太郎両先生、成澤伍一郎武徳会上小支所長（上田市長）有功章拝受記念
小宮山太助先生剣道錬士拝受記念大会（旧武徳殿）

会員の近況報告

(10 期石田大地)

正月のOB会幹事を務めさせていた
だきます百十期の石田大地です。ま
ずは近況報告として就職が決まり、来春
より社会人の仲間入りをする予定です
(ちゃんと卒業できればですが、笑)
私は大学四年間アメリカカンフットボ
ールという競技に取り組みました。高校
までは剣道しかやることがなかった
のですが、面を近代的なヘルメットに
替え、小手を革のグローブに替え、胴
を金属のシヨルダーに替え、裸足だつ
た足にはスパイクを履き、道場から人
工芝グラウンドへと活動の場を移しま
した(笑)。高校時代は三十人にも満た
ないチームだったのが、大学では組織
も大きくなり、百二十人弱のチームを
引つ張る四年として一年間活動しま
した。大学四年間で体重も三十キロ程
増えました。(笑)

大学の四年間で一人の人間として一回
り大きくなるができたと思ってお
ります。(たぶん、体だけではないは
ず笑) 来年一月二日の稽古会では多く
の先輩方、
同期、後輩
達と剣を交
えられるこ
とを楽しみ
にしていま
す。



(82 期中沢彦彦)

平成二十七年九月十二日(土)に松
代高校体育館で第二十三回長野県実業
団・官公庁親善剣道大会(主催・同大
会実行委員会、後援・長野県剣道連盟)
が開催され、個人(一般)の部で上田
高校剣道班OBの矢ヶ崎心哉さんが優
勝、個人(女子)の部で同OGの滝沢
美保さんが準優勝しました。

本大会は長野県内の実業団や官公庁
勤務の勤労者による剣道大会。ご存知
の方も多いでしょうが、矢ヶ崎さんは
第百五期剣道班・班長。高校時代は県
団体準優勝で北信越大会出場。大学時
代は中央大学剣道部で腕を磨き、現在
ツルヤ勤務。滝沢さんは第百九期、高
校時代は県新人戦団体優勝及び北信越
大会団体出場、現在、けんしん勤務。
お二人の剣道を知る者からすれば今回
は順当な結果とも言えます。滝沢さん
の決勝の相手は、滝沢さんが幼い頃か
ら指導を受けた全日本女子剣道大会に
二回出場の澤田かおりさん(上田東高
校OG)。今回は恩返しを期待します。
団体戦でもお二人が出場した横澤税理
士事務所合同チームが団体(女子)
で優勝。団体(一般)も、全日本実業
団大会で上位入賞実績があり、今大会
優勝した日通商事に惜敗の大健闘でし
た。

大会前、矢ヶ崎さんの中央大学剣道
部、滝沢さんの坂城中学剣道部の先輩
である三井宏喜さん(上田東高校OB、
昭和五十四年IH個人県代表出場)が
急逝されたこともあり、二人の気持ち
の入った試合振りには心を打つものが

ありました。



優勝した横澤税理士事務所チーム
右から滝沢美保氏(109 期) 澤田かおり氏
(上田東 OG) 宮原理沙氏(長野西 OG)

(80 期正村聖美)

第63回長野県剣道居合杖道薙刀大会が
11月23日長野市ホワイトリングにて開
催され、上田高校OB有志も参加し
た。(明倫会男子) 下形、大木、矢ヶ崎、
朝倉、(明倫会女子) 三井佑、三井楓、
滝沢、中村、正村、(誠心会) 滝澤(戸
上剣道クラブ) 滝浪遙

★明倫会女子は、先鋒正村、次鋒中村
が勝ち、中堅三井楓負け、滝沢、三井
佑引き分け。最後の代表戦、三井佑対
滝浪遙は白熱した試合でした。
★明倫会男子は松商学園高校に勝ち、
長野県警察機動隊に負けました。長野
県警察機動隊は、優勝でした。
明倫会男子は二回目出場、女子は初め
てでしたが、楽しい大会でした。

宮下杯優勝者の声

【男子優勝】三年百十四期 我山能崇
伝統ある上田高校剣道班の宮下杯優
勝という形で高校剣道を終えることが
でき、うれしいと同時に少しさみしさ
も感じます。

私は中学生の頃、大会で見た上田高校
剣道班の強さ、かつこよきに惹かれ班
活動をこの剣道班に決めました。入班
し、憧れの先輩方に混ざり稽古する
ことは楽しく、また多くを学べました。
先輩方がいたからこそ自分はここまで
成長することができたのだと強く思い
ます。

また私の高校三年間は顧問の先生が毎
年変わりました。日頃の稽古に剣道の
できる先生がいけないということでも
B・OGの先輩、先生方が多々稽古を
つけに来てくださったり、合同練習に
参加させていただいたりと多くの面で
支えてくださり、なんとか緊張感の持
てた稽古をすることができ、感謝して
います。

目標であったインターハイ出場は果た
せませんでした。三度の北信越大会
を経験できたことは今後の私にとって
良い思い出であり、またここまで成長
できたのは多くのOB・OGの先輩、



先生方、そして日頃からすぐ近くで支
えてくださった両親のおかげです。
本当にありがとうございます。

【女子優勝】二年百十五期 小出 憇
先輩方にとって高校生活では最後と
なる試合でした。私たち後輩は剣道だ
けでなく、日常生活の面でも先輩方は
目標であり、その背中を常に追い続け
てきました。この思いを伝えるために
私は宮下杯に臨み、優勝という形で感
謝、そして成長を伝えることができた
と思います。

また、これを期に新体制となりまし
た。今年から正顧問に若林先生が就任
されたこともあり、今までは何
の違和感もなくできていた稽古がぎこ
ちなく感じるものがしばしばありまし
た。改めて三年生の先輩方の偉大さを
実感するとともに、これからは私たち
がつくり上げていくという思いが一層
強まったと感じています。

男女それぞれ目標に向かい、限ら
れた時間の中で、今後もより内容の濃
い、質の高い稽古続けていきたいです。
自分たちで考えて実践していく、それ
が上田高校の伝統であり強みです。私
はこの素晴らしい環境で毎日稽古でき
ることを誇りに思います。

最後に、いつも稽古や大会に思いき
りうちこめるのは顧問の先生方、保護
者の皆様、そしてOBの皆様の支えが
あるお陰です。本当にありがとうございます。
そして私たちが応援し支えて
くださる方々の期待に応えられるよ
う、「全員剣道」の精神で班員一丸と

現役生の声

なり、少しずつではありますが、良い結果を残していけるように日々精進していきます。

【班長】三年百十四期 大石峻也

私は、伝統あるこの上田高校剣道班で活動できたことをとてもうれしく思います。また、班長を務めさせていただいたことに感謝しています。

私たちは、インターハイ出場を目標に掲げ、質の高い稽古を心がけました。しかし、新体制になってからは、だらだらとした稽古が続ぎ、とても全国を目指している学校だと言える状況ではありませんでした。大会でも結果が出ない時期が続きました。この状況を断ち切るために、自分たちが目指しているもの、自分たちに必要なものなどを班員全員で再度確認し合いました。そうしたことで私自身もそうですが、班員一人ひとりの意識が変わり、稽古に対する姿勢も変わりました。新人戦が終わってからは更に雰囲気が変わり、全員が同じ方向へと向かっている気がしました。寒さの厳しい冬を越し、いよいよ三年生にとって最後の夏の大会を向かえました。今までやってきたことを信じ、試合に臨みましたが、県大会では予選リーグ敗退という非常に悔やまれる結果になってしまいました。

私は班長として何もしてあげられず、自分の無力さを痛感しました。しかし、班長を務めさせていただいた

ことで、様々なことを学び、実感することができました。ここで得たたくさんのことを、今後の生活に活かしていきたいです。

最後になりましたが、常日頃ご指導、ご支援してくださったOBの先輩方、顧問の先生方、保護者の皆様、頼りない私についてきてくれた仲間にご感謝申し上げます。ありがとうございます。

【女子班長】百十四期 坂下紗蒼

六月に班活動を先輩方から受け継いだ時、伝統ある上田高校剣道班を引継いでいくことは大変な責任を感じました。皆で稽古のことを考えることは思っていた以上に変なことが多かったけれど、外部指導を担当してくださった近藤先輩や滝浪先輩やOBの先輩方の指導のおかげで練習に集中することができました。

選抜大会など冬の間は、思うように結果出ず、チーム全体に焦りや不安の色がでてきました。女子は五人だったので一人一人の存在が大きくチームに影響を与えているので、一人一人の気持ちが大変でした。日々上下する心の動きがありまとめるのが大変で、また自分自身も気持ちが安定しないことがあります。今思うと班長として周りをもっと見るべきだったと感じています。そんな中でも皆でコツコツと練習を続けたところ、春になって遠征などでも力が

付いてきたことを実感できるようになり、本大会に近づくにつれてチームがよりまとまり、一本を大切に戦うことができるようになりました。県大会では、選手の一人が高熱を出すというハプニングもありましたが、改めて仲間の大切さを感じ、チーム全体として仲間のために戦うことが出来たと思います。

目標とする結果とはならなかったけど、最後に今まで一番良いチーム戦を行なうことが出来たので悔いはありません。顧問の若林先生、倉石先生、

平成二十七年度会費納入者芳名録(順不同)



9月13日第九回真田幸村杯剣道大会にて、上田高校選手

- | | | | | | |
|--------|------|----------|----------|----------|-------|
| 赤池孝夫 | 小野満也 | 酒井諒子 | 竹内茂直 | 堀内アキヒ | 柳原昭治 |
| 池田晃 | 加藤篤史 | 坂下繁行 | 竹内公美子 | 保科紀丈 | 山浦 雄 |
| 池田俊朗 | 金澤勝幸 | 坂戸由恵 | タケハナケンジ | 増田靖 | 山浦光 |
| 池田直樹 | 金澤信男 | 佐藤博 | 竹内聡一 | マツオサム | 山口元彦 |
| 石田大地 | 金森健志 | 下倉裕亮 | タケウチヒデアキ | 松沼明広 | 山崎完爾 |
| 石井秀樹 | 香山博 | 篠塚重津砂 | 田中正暁 | マバヤシダイスケ | 山田恒昭 |
| 井出賢次 | 唐澤信広 | 清水通男 | 田中義司 | 松山正史 | ワダナオミ |
| イワタナリコ | 工藤泉 | シモカタユキヒロ | 田村春樹 | 丸茂京子 | ワダタカシ |
| 上平忠一 | 工藤武和 | 正村聖美 | 飛田武昭 | 丸山潤 | |
| 上羽昌美 | 窪田仁志 | 白鳥タイシ | 中村学 | ミヤサカタツヤ | |
| 大木智恵 | 窪田通人 | 須永久 | ナカムラツシ | 宮坂信之 | |
| 大木孝弘 | 栗田有樹 | 春原和民 | 仁木邦彦 | 宮坂昌宏 | |
| 大島英穂 | 桑沢俊猛 | 春原光希 | 西澤正夫 | 宮坂昌之 | |
| 大谷圭志 | 現田一郎 | 関省吾 | 箱山康弘 | 宮沢伸彦 | |
| 大塚博文 | 興水理美 | 関美智子 | 羽田敏幸 | 毛利義範 | |
| 荻原秀俊 | 小林真大 | 関戸啓司 | 羽田丈夫 | 百瀬弘一 | |
| 荻原輝和 | 小林由佳 | 高木重雄 | ハヤシロリキ | 矢島智弘 | |
| 小倉幸栄 | 近藤敏朗 | 滝沢美保 | 林新 | 柳沢 哲 | |
| 鬼久保竜師 | 近藤賢一 | 滝浪通 | 深井ユキ | 柳沢 哲 | |
| 鬼久保幸伍 | 金野美紀 | 滝澤牙毅 | 深町さや香 | 柳沢玲一郎 | |

連絡事項

一月二日OB会のお知らせ

日時平成28年一月二日

●午後一時〜若手OB対現役生試合
終了後合同稽古会
会場は上田高校体育館

●午後六時〜懇親会 大門町「さざや」
(五時半より受付) 会費3000円

※幹事(百十期) 石田 大地
090・2661・1303

●来年度会費納入のお願い●
会費(三千元) 納入は総会後一ヶ月以内、七月末までに左記の方法でお願い申し上げます。※ご寄付は随時受付しております

(1) 郵便振替用紙での送金
郵便振替 口座記号番号
00510・6・50693

加入者名: 上田高校剣道班OB会
(2) 銀行口座へのお振込み
八十二銀行 上田支店
口座番号: 1014425

名義: 上田高校剣道班OB会
※卒業期とお名前の記入をお忘れなく

来年度のOB会総会は
6月25日(土) 予定

○住所変更の方は幹事長まで
七十七期 山崎 完爾
〒386-0004
上田市殿城一三八八一四
事務局 uken_ob1955@gmail.com